

研究会にはモノづくり日本会議会員企業などから約60人が参加

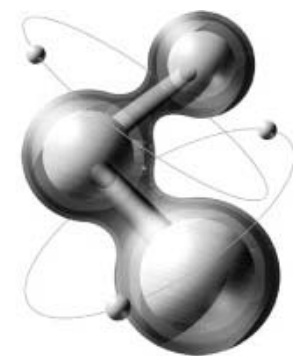


早稲田大学で私の指導教員だった加藤一郎先生は1994年に他界された。大学での研究対象として人型ロボットを扱った世界でも最初の研究者だった。加藤先生の弟子が集まって早稲田大学は00年4月にヒューマノイド研究所を設立。ここではヒューマノイドロボットの研究で国内の企業や大学はもちろん、海外の大学や研究機関なども共同研究を進めている。

なぜ人型(ヒューマノイド)ロボットなのかと聞かれることがよくある。通常のエンジニアリングでスペックやファンクションを与えられ、その結果として人型になったのであればまだ分かるが、なぜ最初から人型なのか。加藤先生も言っていたが、一番の理由は人の一部の形態を再現することで人の機能を解明することにつながるからだ。ロボット工学の視点から、人間を科学するための道具として人型ロボットを研究する。私はこれをロボティックヒューマンサイエンスと呼んでいる。ロボット工学的な

多摩ソーシャルロボットテクノロジー研究会

人に寄り添う技術とこころ



モノづくり日本会議
—モノづくり推進会議 NextStage—

セコムは1962年設立で今年50周年を迎える。セキュリティや防犯の会社だと考えている人が多いが、セキュリティ、メディカル、保険、不動産、地理情報、防災、情報通信の七つのドメインで事業を展開している。これらの事業領域は脈絡がないように見えるが、安全で安心な生活を維持するために必要なサービスを提供するという共通の目的がある。

セキュリティは機械警備(オンラインセキュリティシステム)で法人や家庭向けに国内で約240万件の契約がある。常駐警備や身辺警備、現金送付サービスなどを展開する。情報通信は都内にデータセンターを設けて各種サービスを実施。(ファイル共有ソフト)のWinny検知や情報漏洩対策、電子認証などの情報セキュリティを長年手がけてきた。メディカルは訪問看護、介護、薬提供、有料老人ホーム、遠隔画像診断支援サービスなど、防災は煙探知機、自動火災報知機といった防災シ

モノづくり日本会議は2月22日、東京都八王子市の王子先端技術センターで多摩ソーシャルロボットテクノロジー研究会を開いた。小松崎常夫セコム執行役員ES

研究所長が「なるほど価値」と「水平目線」により良き医療福祉サービスのために、高西淳夫早稲田大学創造理工学部総合機械工学科教授・ヒューマノイド研究所

長が「ヒューマノイド・ロボット研究とその応用」をテーマにそれぞれ講演した。モノづくり日本会議会員企業などから約60人が参加した。

講演 ヒューマノイド・ロボット研究とその応用

早稲田大学創造理工学部総合機械工学科教授・ヒューマノイド研究所長 高西 淳夫氏



視点から人間を解明できれば、ある意味で工学モデルがつくりあげられる。モデルができれば例えば義手や義足、また自動車、家具など多くのモノの設計が変わる。これまではエンジニアが経験をもって培ってきた設計論があった。しかし機能を試すにはたくさんの製品をつくらなければならない。工学モデルを設計に組み入れられれば、かなりの精度をもって自分の目的と

ロボット工学の視点から人間を解明 モデルできれば設計変わる

に取入れられた。現在も大半の二足歩行ロボットは膝を曲げた格好で歩いているが、骨盤の動きを活用すると膝を伸ばしきつても制御的に問題なく歩ける。楽器を演奏するロボットもいろいろ開発した。フルート演奏ロボットは容積5分の肺や横隔膜のメカニズムを搭載した。どこで息継ぎをするかを考え、喉にピブラート、舌にタンギングの機構も設けた。最近ではある会社の依頼でサクション演奏ロボットも研究した。歩かせて演奏するので大きな肺は載せられないし、リードの噛み方で音が変化する。ラッパのように大きな音で高音を出すのは簡単だが、フルートの低音でむせび泣くような音はまだ出せない。

このほかにも情緒交流ヒューマノイドロボット「アイちゃん」は目や口、眉毛などが動き、情動・感情のモデリングを可能にした。人は外部情報を視覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚、聴覚の5感で吸収する。アイちゃんも味覚以外の4感をセ

講演 「なるほど価値」と「水平目線」～より良き医療福祉サービスのために

セコム執行役員 I 研究所長 小松崎 常夫氏



仕組んでセコムが初めて導入したサービスだ。地理情報は比較的新しい事業で、地理情報とセキュリティの連動を考えている。セコムが提供するサービスはスピードが求められるため、地理情報をコンビニと連携させることがサービスの生命線になる。これは直接的なサービスと言いつつ、サービスを展開する大企業はリアルタイムで不動産のグローバルサービスなどのマニションを開発、販売している。この七つの事業を混ぜ合わせ、ユーザーからはそれが一つのサービスに見えるようにすることがセコムの重要な戦略だ。現在、国内には1000の事業所と2830カ所の緊急発進拠点がある。24時間365日の急行可能なネットワークサービスを提供する上で

ユーザー／大学・研究機関・メーカー
三位一体でサービス創造

必要なのは技術だけではなく、セコムでは人が「なるほど」と感じることができ、かつどうかを重要な価値だととらえている。安全性、先端性、必然性、驚き、共感などによってユーザーに「なるほど価値」を感じてもらうことが大きな目標だ。水平目線とは、「上から目線」ではなく「目線」ではないということ。例えば、いかに不自由な人を弱者といふた目線ではあると最悪なサービスは提供できない。また技術者の誇りをなくし、へりくだって現場の意見に従うだけのモノづくりでは良いモノができない。セキュリティや医療など多くの分野に関わるサービスプロバイダーとしてユーザーが本心に求めているものを提供するには、自分自身がサービスを受ける当事者でもあるという水平目線が必要になる。今後も水平目線などの視点から「なるほど価値」を高めるためにセコムはユーザー、大学・研究機関・メーカーと三位一体になってサービスを創造していきたい。

モノづくり日本会議

100年経営の会 キックオフ・地域フォーラム @ 大分県臼杵市

100年企業に学ぶ 日本の誇り・大分の誇り

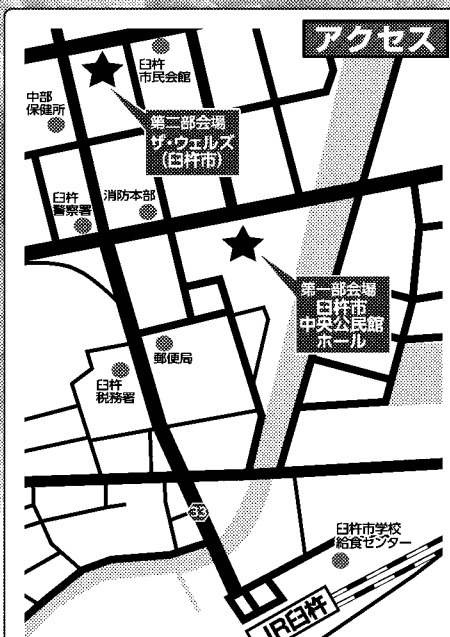
参加費
第一部 無料
第二部 3,000円

日時 2012年 3月27日(火)

第一部 フォーラム 14:00～17:00
会場 臼杵市中央公民館ホール 大分県臼杵市大字臼杵 2-107番 562

第二部 交流会 17:30～19:30
会場 ザ・ウェルズ (臼杵市) 大分県臼杵市臼杵洲崎 72-38 (市役所前)

主催 100年経営の会・モノづくり日本会議・日刊工業新聞社



第一部会場 臼杵市中央公民館ホール
●JR日豊本線 臼杵駅より徒歩5分
●大分自動車道臼杵ICより車で10分
第二部会場 ザ・ウェルズ (臼杵市)
●JR日豊本線 臼杵駅より徒歩10分
●大分自動車道臼杵ICより車で10分

開催にあたって

企業の寿命は30年という声も聞かれる中、なぜ日本に創業百年を越す企業が2万社もあるのか。創業者精神のあくなき継承か、伝統と革新の両立か、日本人の高い精神性こそがもたらす「クールジャパン」なのか。

「100年経営の会」は日本経営のDNAを紐解くべく日刊工業新聞社を事務局として11年10月に設立されました。同じく社がつとめる「モノづくり日本会議」でも長寿企業のイノベーション研究に取り組んでいます。そして今回、日本経営の誇りを再生産していくためのムーブメントとして、多くの100年企業を生み出した大分を拠点として大分の自治体、企業と連携し、100年企業フォーラムを開催します。

※本プログラムは、予告なく変更する場合がございます。

プログラム 第一部 フォーラム 14:00～17:00 会場 臼杵市中央公民館ホール

14:00 オープニング
来賓挨拶
100年企業へのエール
広瀬 勝貞氏 中野 五郎氏
大分県知事 臼杵市長

14:15 プレゼンテーション
「100年経営の会」とは
100年経営の会のご紹介

14:20 基調講演
長寿企業に学ぶもの
北畑 隆生氏
元経産事務次官
100年経営の会 会長

14:40 特別講演
長寿企業の国 日本への期待
モンテ・カセム氏
学校法人 立命館 副総長

15:25 100年企業紹介・パネルディスカッション
長寿企業を育む企業家精神

パネリスト
モンテ・カセム氏
学校法人 立命館 副総長
野田 泰三氏
株式会社セリカNODA 代表取締役社長
飯倉 里美氏
株式会社みよばん 湯の里 代表取締役
株式会社みよばん 湯の花製造 代表取締役
小手川 強二氏
フンドーキン醤油株式会社 代表取締役社長
モデレーター
後藤 太一氏
福岡地域戦略推進協議会事務局長

16:50 閉会挨拶
17:00 終了

プログラム 第二部 交流会 17:30～19:30 会場 ザ・ウェルズ (臼杵市)

第一部で紹介できなかった100年企業や、大分、九州域内の注目企業の関係者による参加者へのプレゼンテーションおよび交流の場。 会費 3,000円

お申込方法 下記のホームページをご登録ください。

<http://www.nikkansc.co.jp/100years/usuki>

お問い合わせ 100年経営の会 事務局 (日刊工業新聞社内) 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町 14-1
TEL 03-5644-7608 FAX 03-5644-7209 www.cho-monodzukuri.jp 担当: 名取・西内